

ぴちなつのキャンパスライフ

momochiopamu



高2。mixiと出会う。

「私は、外に向けて自分を配信するのが好きな性格なのかもしれない。」

mixiボイスという機能を使って一日に10回以上呟く。

友人から相当迷惑がられていただろうが、やめることが出来なかった。

友人からコメントをもらったり、返したり。

コミュニケーションが取れる気軽さが好きだった。

高3。

進路選択の時期が差し迫ってきた。

文武両道(笑)を謳う我が川越南高校では、大学受験を押していたこともあり、夏休みに大学のオープンキャンパスへ行くことになった。その際の、mixiの日記が以下である。

2009/6/29

またこれからちょっと 絶賛放置期間いくだよ☆

の前に昨日の話するだよ！

昨日はオープンキャンパス行った☆

ひとつ日の大学はめっちゃ綺麗で学食めっちゃうまかった(人人)

カレー食べたんだけどね本場の人みたいな人がいて、
ナンを目の前で作ってくれてすごく感動しちゃったよ(^O^)*

二個目の大学は

敷地に入った瞬間にドンチャカ太鼓みたいなのが聞こえてきて
祭か〜?!(◎_◎)とか思ったけどなんか応援団の発表やってて
学ランで坊主やパンチパーマのいかつい方々やチアガールさん
がいてとにかくすごかった!なんか迫力がすごかった〜
友達もいったけど一瞬にして入りたくなったw

ある学部のオリエンテーションが
立派なお姉さん元気で可愛くて
まじで超入りたくなった(;ω;)

次の次に行った学部のプレゼンがおもしろすぎた←

結果、ここの学生はいきいきしてると感じた\(^O^)/
まじいきてーよいけねーよ悲しいねバカってw

悲しいね勉強しよう。(笑)

今日からがんばって勉強するよ!

文章が稚拙なのは置いておいて...

私が結果入学することになる大学は二個目に行った大学である。

この瞬間から私は、憧れを叶えるために日夜勉強に励んだ。



そして受験戦争にて勝利を収めたのだ!

ギリギリセーフの補欠合格と言う形ではあったが、
合格は合格である。

卒業式の日笑顔。キラリ（右：菊地）



～この際、冠詞の a や The は気にしない～

大学入学。

外濠公園は桜が満開だった。

入学式にて私がオープンキャンパススタッフをやるきっかけを作ってくれた友人と出会う。

入学式を終えて、かつての目標だった「この大学の学生になる」を達成した私は、日々新歓コンパを渡り歩く毎日を過ごした。

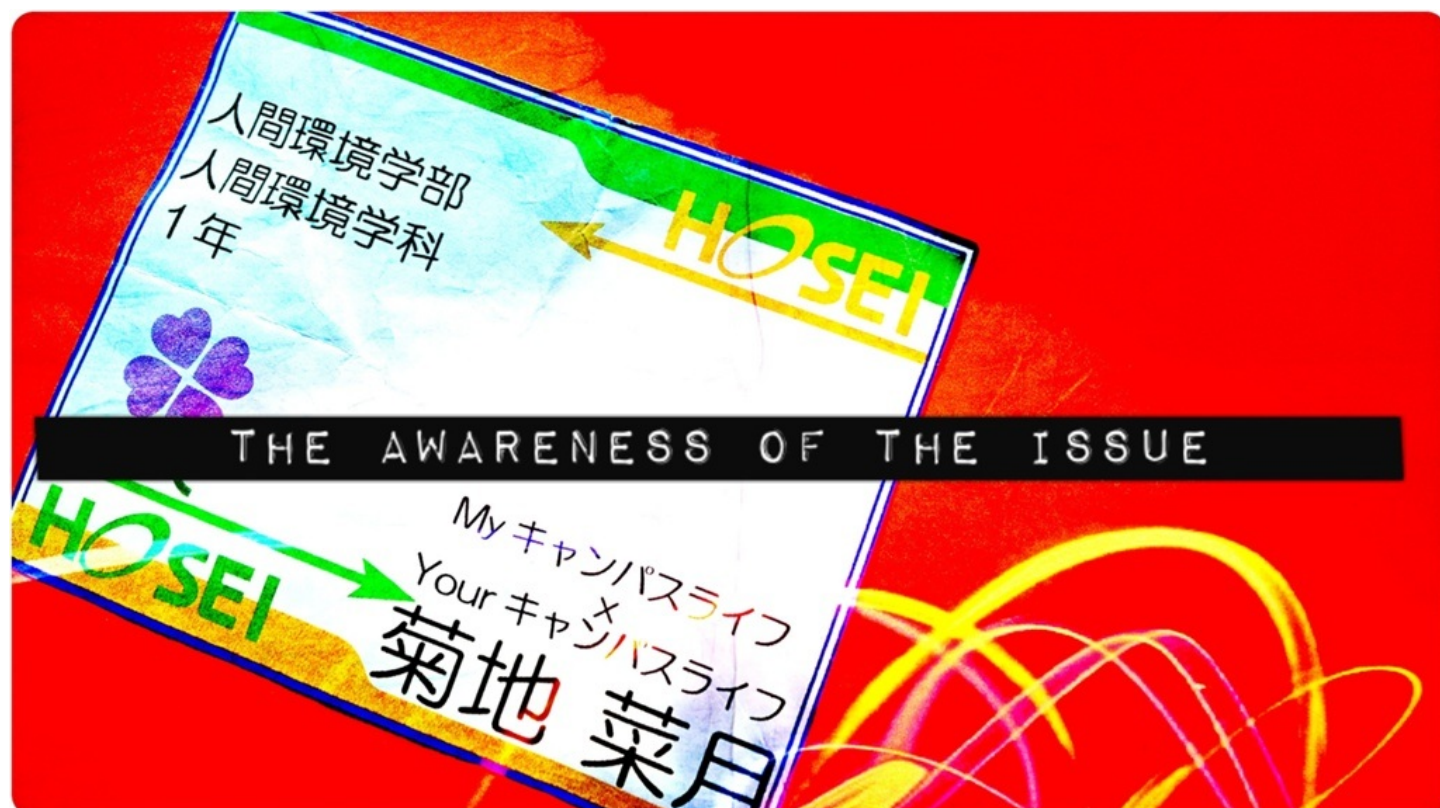
“ダイガクセイってこれでいいのかな...?”

そんな疑問が脳をかすめているときに、その入学式の時に会った友人に、
「オープンキャンパススタッフ一緒にやってみない？」と誘われたのだ。

自分がこの大学を志望した理由が蘇ってきた。

「やってみたい。」

そう思ったと同時に私はエントリーシートに記入を始めていた。



法政大学のオープンキャンパス

学生主体のオープンキャンパス。毎年3万人が来場する、首都圏大学の中でも人気の高いオープンキャンパスとされている。

職員さんとも協力しながら、学生が作り上げるオープンキャンパスで、学生の生の声を届けることをウリとしている。
学生スタッフは250名おり、14の部署から構成されている。

入学直後の5月。

オープンキャンパススタッフの面接を経て、晴れてスタッフとなる事が出来た。

志望理由のうちに、“自分が高校生としてオープンキャンパスを訪れた時の感動がきっかけで、入学を決めたこと”や、“自分も、来場者から憧れられるようなお姉さんになりたい”と感じていることを話した。

最初の1年、オープンキャンパススタッフを経験して、「来場者が満足して帰ってくれるためにどうすればいいのか」「自分の大学のファンにさせるようなオープンキャンパスってどんなものか」ということを考えるようになった。

それを突き詰めるために、部署の中の一スタッフではなく、250名いるスタッフの中核を担いたいと言う気持ちが湧き、2年次でリーダーに立候補することを決意した。

行動！



2年生。

部署リーダーとして立候補した。

「来場者が満足して帰ってくれるためにどうすればいいのか」

「自分の大学のファンにさせるようなオープンキャンパスってどんなものか」

実際に私がこの大学のオープンキャンパスに満足し、ファンになったきっかけは、学部紹介のお姉さんが親身になって話を聞いてくれたり、自分の大学生生活をイキイキと話してくれたからである。

そんなスタッフが増える事＝“人の質の向上”を目標にし、全体を俯瞰でき、企画や運営に直接的に関われるリーダーという役職に、胸が高鳴っていた。

しかし、実は自分がリーダーとしてできることは身の回りの細かいことの方が多いことに気付いた。

部署の中では右も左もわからない1年生や、4年生でも、初めてオープンキャンパスに挑戦する人。

この人たちがオープンキャンパス当日にイキイキとキャンパスライフについて話して貰うために、部署のスタッフの居場所を作ってあげることが効果的だと考えたことから、部署内コミュニケーションの促進に交換日誌を用いた。

部署内で交換日誌を始め、スタッフな些細な心の変化にも気付き、部署内外での環境の調整をした。

結果、ひとつの部署としてまとまりを見せることが出来た。

＼(^。^)/休憩＼(^。^)/



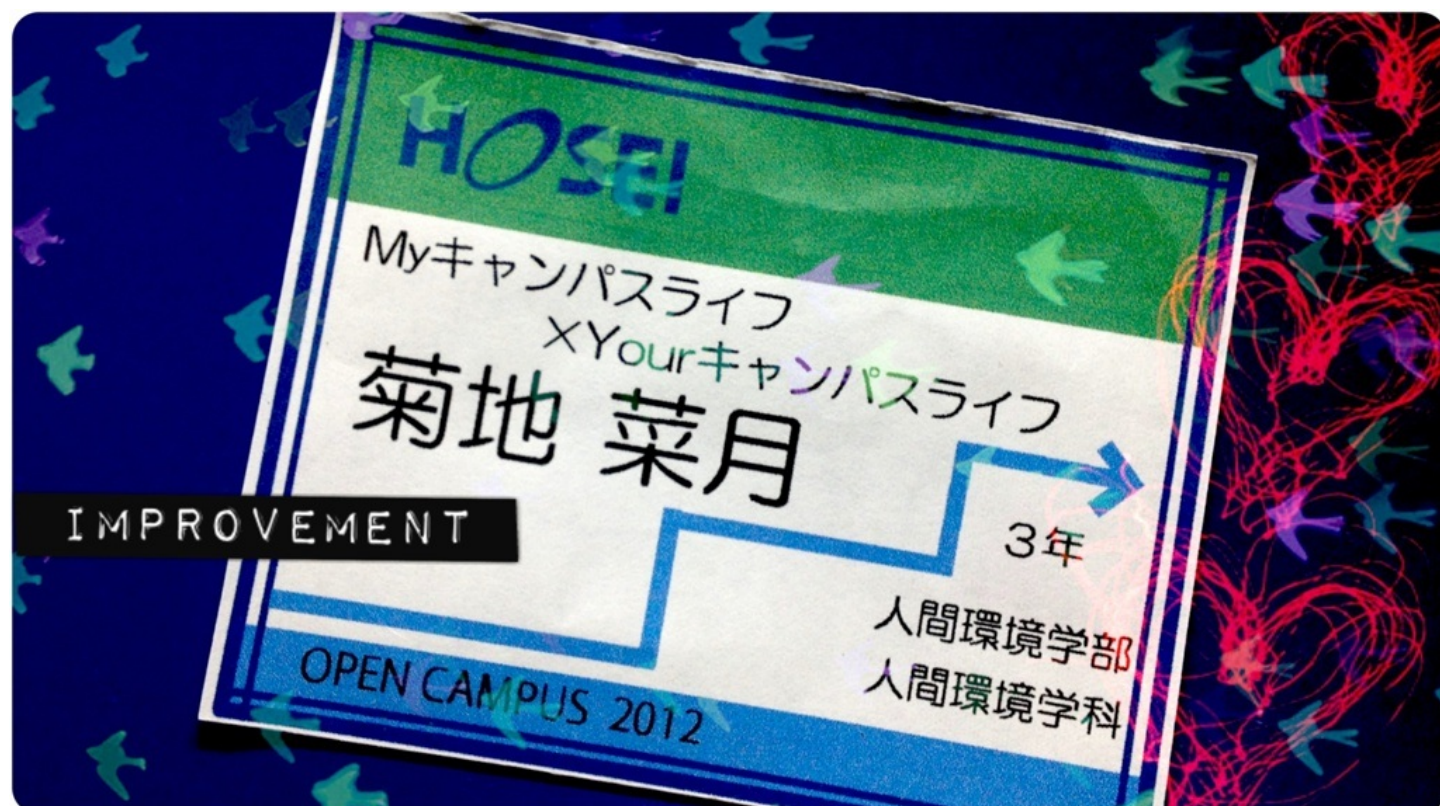
オープンキャンパスに来てくれたK君。

オープンキャンパスが決め手となり入学を決めてくれたそう。
。

とても嬉しい出来事だった。

福岡からわざわざ来てくれました。

改善！



3年生。

2期目のリーダー立候補

今回こそは全体の企画に関わりたい。そのために解決すべき問題を洗い出していた。

あるとき、来場者からのクレームを頂いた。

「スタッフの感じが悪い」

私は正直感じの悪いスタッフがいると思っていたため面をくらってしまった。

しかし、問題を突き詰めると、スタッフ間のモチベーションの差異と言うものが存在しているという結論にたどり着いた。

そのためにはどうすればいいか、リーダー仲間と考え、

「あいさつなどのコミュニケーションがある人同士で、感じが悪いとは捉えようがない！」

「スタッフ同士でもたくさんあいさつして雰囲気を明るくしよう」

「あいさつが出来る関係...仲良くなろう！」

という事で大規模な合宿を企画することになった。

幸いなことに私の部署はモチベーションが高いスタッフが多いことから、「この高いモチベーションを周りに波及し、クレームを減らす対応が出来ないだろうか。」と考え、自部署スタッフと他部署スタッフ数名に声を掛け企画チームを編成した。

オープンキャンパスの準備と並行して、企画チームで、交流を通して親睦を深めてもらうためにはどんなプログラムが有効か案を出し合うミーティングを2週間に渡り実施し、レクリエーションの企画の中では、沢山の人の関われるように工夫し、グループ対抗・学年対抗・男女対抗などのプログラムを用意した。



合宿を終えると、学生代表から、「今までにない楽しい合宿だった。新入生も定着しそうだ。」との声をいただき、また合宿後に行われたオープンキャンパス当日では、スタッフ同士の挨拶が増え、コミュニケーションも活発に取られていたのを実感し、企画して良かったと思えた。

来場者アンケートでは、学生スタッフの対応に関するクレームが無くなり、名指しで自部署のスタッフがお褒めの言葉をいただいていたことは自分の事のように嬉しかった出来事だった。

この活動を通して、「人を巻き込んでいくことでチームが思いもよらぬ力を発揮することができるんだ。」と感じた。



私はこのように、

「来場者が満足して帰ってくれるためにどうすればいいのか」

「自分の大学のファンにさせるようなオープンキャンパスってどんなものか」

3年間を通して人とのコミュニケーションを重視してきた。

コミュニケーションは対面で行うだけでなく、新しい方法がたくさんある。

日誌での、紙の上でのコミュニケーションや、合宿などで体を動かし交流をするコミュニケーションなど様々だ。

そのなかでも、インターネットは気軽に、人との物理的距離を一瞬で0にする。

そんな便利なインターネットでのサービスを生み出し続けている貴社が非常に魅力的であると感じた。

以上

稚拙な文章でしたが、ご精読ありがとうございました。

菊地菜月